

## オーストラリア国ヴィクトリア州の演劇事情（２） ——地域劇場の施設と運営、ヴィクトリア州の文化予算と文化政策——

研究代表 安 藤 隆 之

### はじめに

なぜオーストラリアなのか。なぜヴィクトリア州なのか。

私がオーストラリアに関与したのは、世界劇場会議'93の準備を通してである。南半球のオーストラリアは、私にとってはタヒチ以上に遠い国、インド洋に浮かぶセイシェル島と同じ保養地、アジアあるいは世界から隔離された白豪主義の別天地に過ぎなかった。しかし会議準備のために様々な国際人とコンタクトする中で興味ある事実気づいた。オーストラリア人の場合、我々が呼ぶからやって来るのではなく向こうから道を探してやってくる。例えば私たちの大切な友人カリロ・ガントナー、七十年代のメルボルンに演劇革命をもたらした俳優の一人だが、彼はこの時すでに中国の北京や上海と深い交流を重ねていた。彼らはアジアに積極的なアプローチをかけてくる。なぜか。

少し回り道をするが、日本の芸術家あるいは知識人は幕末期からヨーロッパを目指してきた。しかしかれらの欧化主義は三十年代に国粹的イデオロギーに流されてしまう。明治以前の日本が中国との交流を通して経験した千年の振り子現象（本質を変えないまま、開いたり閉じたりする反復作用）は軸を欧米に移しても続いた。日本が外部世界と作る関係式にあって中国信仰と欧化主義は交換可能な装置であったということである。日本をして欧米の属国に貶めることなく近代国家へと変貌させてくれた関係式と思えば「是」であったが、それがために「八紘一宇」のような妖怪を生み出したと思えば「非」である。日本の戦後復興はこの不可思議な体質を保持したまま始まった。

しかし六十年代になると、様々な「異議申立て」が起きる。大学を始めとする学校教育と知識体系の欺瞞性、生産至上主義の結果として生じた環境破壊の愚、戦後日本に奇跡をもたらしたはずの「日本株式会社」の奇形性、これらに対する一連の「異議申立て」行動は日本社会の関係式そのものへの楔であった。しかし七十年代以後の高度経済成長はこうした声と行動を飲み込んでしまう。実際、加速的に大きくなる〈パイ〉は生活水準の飛躍的向上をもたらし、いわゆるシビルミニマムの達成をもってすべての問題の解消に成功するかに見えた。しかし浮かれていた間に徐々に進行した社会構造の変化、国際関係の変化そしてバブル経済崩壊後の覚醒状態にも助けられて、四半世紀経た今日ようやく「異議申立て」の重要性が大衆的レベルにおいて認知されようとしている。

しかしそれ以前から一部芸術家、知識人は欧化主義を排してみずからの足で歩きだしていた。アジアに身と心を置いてその地点から日本と欧米を眺めるといふ新しい視点が動き出していた。「アジアの時代」と喧伝しながら、日本からアジアを眺めていては千年の関係式の呪縛から解放されない。そうではなく、思索的であれ実践的であれ、かの地に身を置き、日本というものをアジアにあってアジアではない不可解な存在として対象化することが大切である。千年の振り子現象、あるいは二項対立的思考から脱して三極的思考に向かう時である。しかし越境的行動に出るには方法が必要である。

オーストラリアとの出会いはその途上の偶然に過ぎなかった。オーストラリアはある意味で日本と同じ悩みを抱えている。アジアに隣接しながらこれに近寄らず（あるいは寄せ付けず）、ヨーロッパへの憧れと反発を持ちながら宗主国イギリスを遠くから眺めている国、それは〈アジアの中の孤児〉日本に似ている。しかし彼らはある時から敢然としてアジアに門戸を開いた。1994年の秋、私はメルボルン・フェスティバルに参加する機会を得たが、アボリジニアンデザインのステンドグラス輝く国立美術館の大広間で、時の宰相キーティングが「ザ・クリエイティブ・ネイション」（創造する国民国家）という基本政策を発表した。これは歴史的事件であったと思う。彼らは国策として貪欲な好奇心と開放的な情熱をもってアジア諸国にアプローチすることにしたのだ。もっとも国家がステイトメントを発表する時はすでに既成事実が先行しているのが普通である。多くの場合、発動している方向性の確認に過ぎない。カリロ・ガントナーはそれ以前に中国、日本へ動いていた。

メルボルンから帰国した私はオーストラリアの舞台芸術の社会基盤研究に着手する。五年計画でメルボルン市とこれを中心とするヴィクトリア州の事情を調査し、最終的に日本との比較研究フォーラムを開催するプランを立てた。

この時点ですでに中京大学の文化科学研究所には演劇研究グループがあった。メンバーの多少の移動はあったが、名古屋市、三重県、岐阜県、そして名古屋市近郊都市の劇場調査を行っていた。その成果は、三つの報告書として出版されている<sup>(1)</sup>。

(1) 『名古屋市文化圏劇場調査中間報告書』、中京大学文化科学研究所紀要、第1巻第1号（1989）

『三重県劇場調査報告書』、中京大学文化科学研究所紀要、第2巻第1号（1990）

『愛知県劇場調査報告書（名古屋市郊外都市編）』、中京大学文化科学研究所紀要、第2巻第1号（1990）

それまでテキスト中心の研究をしてきた私たちであったが、演劇の制作と文化行政の現場に立ち会うことを通して、21世紀にあって演劇はどうなるのか（というのも九十年代に入っただけで演劇運動の彼我の境が喪失して演劇界は迷走状態、あるいはアパシー、あるいはバブルの余韻に浸ったまま明日の人気は考えても演劇の未来は考えないという状況があった）。また魂の発露として極めて個人的な営為でありながら、人間と社会を繋ぐ回路としての演劇の大切さを認識する私たちは、放置すれば必然的に衰退せざるをえない、合理主義の対極にあるような演劇活動を花と咲かせるにはどうしたらいいのか。しかし当初よりこの二つの疑問にたいする答えは、国際的比較研究によって導かれるであろうと考えていたので、国内調査の次に国際調査をおこなうべく準備をした。しかし慣れ親しんだヨーロッパ世界と異なり、アジアに関する知識は乏しくどこから着手すべきかわからなかった。アジアは広大なすそ野を持った豊かな地域であり、比較研究するには焦点を絞って行うしかない。とりあ

えずアジアを歩くことにして、隣国韓国を皮切りに、インドネシア、タイ、中国へと歩を進めた。オーストラリア問題に出会ったのはその頃のことである。より直接的には1994年のメルボルン・フェスティバルとキャンベラのアーツ・マーケットへの参加が意味ある寄り道となった。研究所の仲間に欧米文化の専門家が多かったことと、当時オーストラリアへの社会的関心の高まりがあってそのニーズに応える意味もあって、すぐに共同研究が発進した。

最初のステップは、情報収集の旅であった。予算の関係で二人になってしまったが、メルボルン市の事情はかなり把握することが出来た。第二のステップは、学術振興会助成による滞在であった。滞在中に母を喪うという不幸があって研究は一時ストップしたが、文献収集は続いた。第三のステップは、中京大学特定研究助成による共同調査であった。この種の調査は時間が必要であり、調査結果をまとめるにも幅広い視野が必要である。今後のことも考えて、経済学部の白井敏男教授、教養部の井関 隆助教授と私の三人を中心に、現地スタッフと名古屋大学の大学院生も交えた国際チームを編成した。そして実現したのがヴィクトリア州の地方都市の第一回劇場調査であった。オーストラリアの演劇や社会基盤研究は、点ではなく面で考える必要がある。「世界劇場会議'93」のスローガンの一つは「地域文化の時代」であった。私たちは今でもこれを信じている。今回の調査は信念を政策に転化させるための研究作業でもあった。

さてこの場を借りて、貴重な現地調査の機会を与えてくれた日本学術振興会ならびにオーストラリア・アカデミー、そして特定研究助成によって調査の機会を与えてくれた中京大学に対して感謝申し上げたい。

同時に現地の舞台芸術関係者、大学関係者の皆様にも謝辞を申し上げたい。現地調査にあっては、短い滞在期間中に地方都市を効率よく回るということは協力なくして不可能な業であった。次の人々に対してはとくに深く御礼申し上げたい。

Mr. Carillo Gantner, president of Asialink

Miss Debra Jefferies, senior officer of Arts Victoria

Mr. Peter Eckersall, lecturer of University of Melbourne

Mr. Peter Fitzpatrick, associate professor, director, Centre for Drama and Theatre Studies  
of Monash University

1998年11月12日

安藤隆之

## 目 次

	分担執筆者
1. ヴィクトリア州の地方劇場調査計画	— 安藤隆之
2. ヴィクトリア州の劇場施設と運営	— 安藤隆之
3. ヴィクトリア州の文化政策（次回）	— 井関 隆・安藤隆之
4. オーストラリアの予算（次回）	— 白井正敏
5. まとめ	— 安藤隆之

### 1. ヴィクトリア州の地方劇場調査計画

#### （1）研究課題 「ヴィクトリア州並びにメルボルン市における舞台芸術の社会基盤の基礎調査」

#### （2）スタッフ

氏 名	役 務 分 担
代表代表者 安藤隆之	ヴィクトリア州並びにメルボルン市の公立文化施設と文化政策
分担研究者 白井正敏	ヴィクトリア州並びにメルボルン市の財政における文化経費
分担研究者 井関 隆	ヴィクトリア州並びにメルボルン市の公立文化施設と文化政策
☆現地協力者として以下の4名いる。	
Carillo Gantner 氏	アジアリンク代表
Peter Fitzpatrick 先生	モナッシュ大学演劇研究所所長
Peter Eckersall 先生	メルボルン大学演劇学部講師
Debra Jefferies 氏	アーツ・ヴィクトリア職員
田中 知麻 氏	名古屋大学工学部大学院生（M2）

#### （3）研究目的

地域におけるあるべき芸術振興政策を検討するために海外事例との比較を行う予定であるが、そのための基礎資料を収集する。昨年度（1994年秋）、個人研究費でメルボルン市のアートセンターならびにモナッシュ大学の演劇関係者を訪問した。ヴィクトリア州は愛知県と友好関係にあり、両都市の比較研究について協力を得る算段がついたので、研究調査を開始したい。

平成7年度（1995年度）は、文化科学研究所のグループ研究で予備調査を行った。1996年3月18日の研究例会で報告した。<sup>(2)</sup>

平成8年度は戦後から現在までのヴィクトリア州並びにメルボルン市における公立文化施設と文化政策並びに文化予算に関わる基礎データの収集に限定する。

(2) 「メルボルン市の舞台芸術の社会基盤研究（その1）」、中京大学文化科学研究所紀要、第8巻第1号（1997）

#### (4) 研究計画・方法

- 1) 8日間程度の現地調査によって基礎データの収集を行う。
- 2) 収集するデータの種類は、次の3点である。ただし戦後五〇年間に限定する。
  - ・戦後に建設された公立文化施設の概要（場所、規模、機能、使命と実際）
  - ・ヴィクトリア州とメルボルン市における文化政策の担当部署と組織の概要
  - ・ヴィクトリア州とメルボルン市の財務における文化経費の概要

#### 3) 収集方法

共同研究者三人（と協力者）による見学とヒアリングが基本である。具体的には行政並びに劇場関係者の協力を得て、公立文化施設の訪問と施設のハード的資料と運営組織に関する資料並びに活動概要をアンケート並びにヒアリング調査をする。

またヴィクトリア州とメルボルン市の文化担当官と面談して、文化施設並びに文化事業の担当部署と組織の概要説明を依頼する。

同時にヴィクトリア州とメルボルン市の財務における文化経費の額や割合を公開されている予算書によって調査する。

#### (5) スケジュール：平成9年3月 7泊8日間の調査

3月23日（日）	夜8時頃—名古屋発	機中	1泊目
24日（月）	昼頃—メルボルン市着（空港でレンタルカー借りる）		
	打ち合わせ後、メルボルン市出発（レンタルカーで移動開始）		2泊目
25日（火）	公立文化施設見学（ヴィクトリア州内の自治体）		3泊目
26日（水）	公立文化施設見学（ヴィクトリア州内の自治体）		4泊目
27日（木）	公立文化施設見学（ヴィクトリア州内の自治体）メルボルン市へ戻る。		5泊目
28日（金）	公文書館での資料収集&現地関係者との面談		6泊目
29日（土）	公文書館での資料収集&現地関係者との面談		7泊目
30日（日）	早朝 メルボルン空港発——同日夜 名古屋空港着		

移動で訪れる予定の州内各都市の劇場（プロセニウム付き大劇場）

Geelong	: Geelong Performing Arts Centre	640 seats.
Ballarat	: Her Majesty's Theatre in Ballarat	800 seats.
	: Ballarat Civic Centre	1,250 seats.
Warragul	: West Gippsland Arts Centre, Warragul	500 seats.
Portland	: CEMA Arts Centre	150 seats.

## 2. ヴィクトリア州の劇場施設と運営

### (1) 西ジプスランド・アーツセンター West Gippsland Arts Centre (WGAC)

写真 973021 & 022

1. 所在地: PO Box 304 Warragul, Victoria 3820

2. 電話 : Box Office (056) 230-254/6

: Administration (056) 23-0249

Fax : (056) 23-5846

#### 3. ジプスランド市の概要

メルボルン市の西方 100 km、人口 1 万 3500 人

4. 施設 : 1982 年建設 大ホールを中心とした複合文化施設 (建設費 1200 万ドル)

- ・大ホール

(ただし大ホールのステージ部分を独立させて、客席数 230 の小ホールとして使用可能)

- ・イベント室 (302 m<sup>2</sup> 展示やパーティなどに使用)

- ・会議・セミナー室

- ・展示室 (22.8 m × 9.1 m)

- ・レストラン

#### ○大ホールの概要

客席 ワンスロープ式 座席数 730

写真 973010 & 011

(オーケストラピット使用時は 500 席)

ステージ 13.95 m (W) × 6.3 m (プロセニウムまでの高さ) × 14.95 m (D)

バトン 33 本

音響室&調光室

写真 973013 & 014

楽屋 8 人用 2 室 + 50 人用 2 室

写真 973018

#### 5. 運営

1982 年の建設当初は、ワラガル市の施設であったが、1994 年からは、バウバウ郡 BawBaw shire に所属する施設である。バウバウ郡は、ワラガル市と近隣の複数の自治体が統廃合されて誕生した新しい自治体である。新たな地方議会を構成する最初の選挙まで、ヴィクトリア州政府から任命された 3 名の委員 (commissioner 弁務官) が首長と議会を代行して自治体の運営にあたった。この間に新しい文化マスタープラン Arts & Cultural Plan (1997) が答申され、第 1 回バウバウ郡議会 (1997 年 2 月) で採択された。この中で、ワラガル市のアーツセンターは郡全体の文化活動の拠点として再位置づけされた<sup>(3)</sup>。

経過措置の段階でもアーツセンターの運営は続けられた。決算報告によると、アーツセンターの

業務は、自治体の発展のための行政サービスの一環として位置づけられている。収支バランスによると、1995年—1996年度予算として支出は35万6650ドルを予測している。大きな項目として給与約13万8000ドル、電気ガス水道で3万7250ドル、劇場のメンテナンスに1万4000ドル、建物全体のメンテナンスに約3万ドル、ビル清掃業務に2万6000ドルなどがある。日本の同規模の文化会館の現状からすると、割安の運営費である。決算を見ても、劇場と建物のメンテナンスは外注の清掃費用を含めても、合計5万2900ドルに過ぎない。人件費から考えると、小人数のスタッフしか確保できない。実際、スタッフ数はパートタイム契約2名入れて、5名である。舞台管理技術者は1名しかいない。日本の地方自治体の貸し館の体制に似ている。

収入は、1995—1996年度で予算が20万5000ドル、決算で20万2440ドルである。内訳は、大きな項目で、レンタル料に8万ドル（実際6万8250ドル）、チケット販売手数料2万5000ドル（実際2万8400ドル）、政府補助4万5000ドル（実際4万5000ドル）、喫茶部売り上げ2万4000ドル（実際2万3800ドル）になっている。赤字分の15万1650ドル（実際14万5775ドル）は、行政負担ということになる。支出予算の42.5%の負担という数字をどう評価すればよいのだろうか。

他方、西ジブスランド・アーツセンターは貸し館業に専念しているわけではない。日本流に言う自主文化事業を展開している。プログラムはコンサートからダンスや演劇そして日本でいえば、落語や漫談にあたる小人数のショートプログラムまで含めて年間7本程度。これは日本の地方の文化会館の自主文化事業レベルに似通っている。ただしここでは年間会員制度を採用している。日本流に言えば、行政主催の「鑑賞会」システムということになる。年間の会員数（subscribers）は少なく約300人である。パウパウ郡の人口の1%弱になる。会員の居住地は、過去の経過もあり、主としてワラガル市（人口1万3500人）であろうが、この数字をどう評価すればよいのか。

料金的に見ると、演劇であれ、バレエであれ当日券で平均約40ドル（4000円少々）である。会員になって全部を鑑賞すると、約200ドル。1本あたり、平均35ドル、15%程度の割引となる。当日券の売り上げを勘定に入れないと、収入としては全体で6万ドル程度ということになる。この収入で本格的舞台公演を企画しているのは日本では考えられない。平均しても1本100万円の契約料ではメジャーの劇団を招聘できない。しかし舞台公演は行政負担ではなくて、独立採算である。ただし芸術団体にはメジャーであれば、連邦政府から年間の経常費補助があり、マイナーな芸術団体でも州政府から補助がある。日本で言えば、文化庁主催の巡回公演が地方自治体に格安の契約額で提供されていることに該当する。ただし日本よりオーストラリアの方が独立採算度は高いようである<sup>(4)</sup>。その背景に創造団体のプロフェッショナル度が高いことや、プロが生きて行ける環境が用意されていることなど様々な社会的人的条件の違いがある。

こうした鑑賞プログラムに参加できる地元団体は存在しない。ただしアマチュアの文化活動は推進されている。また将来のクオリティ・オブ・ライフ（文化的生活）達成のための不可欠な要素として地元芸術団体の成長が文化マスタープランの大きな目標の一つとされている。議会によって予算措置も講じるように強く進言されている。10年後が楽しみな自治体である。

(3) 文化マスタープランについては、次号で紹介する。

(4) 連邦政府や州政府の文化政策や芸術支援についても次号で紹介する。

## (2) ベンディゴ・リージョナル・アーツ・センター Bendigo Regional Arts Centre

写真 972027 — 029

1. 所在地: 50 View Street, Bendigo, Victoria 3550
2. 電話 : Box Office & Administration (054) 41-5344  
Fax : (054) 41-6375  
E-mail: capital@peg.pegasus.oz.au

### 3. ベンディゴ市の概要

メルボルン市の西方 150 km、人口 7 万 1700 人

写真 973026

### 4. 施設 : 1873 年建設 大ホールを中心とした複合文化施設

- ・大ホール 1 Capital Theatre

写真 973032 & 033

- ・小ホール 1 Bendigo Building Society Theatre with two different stages

写真 973035

- ・レッスン室 1

写真 973036

- ・会議・イベント室 2

写真 973030

### ○大ホールの概要

客席 ワンスロープ式

座席数 519

ステージ 7.3 m (プロセニウム W) × 6.3 m (プロセニア H) × 7.3 m (D)  
13.0 m (wall to wall)

バトン 4 本

音響室&調光室

楽屋 4 室 (1 人用、2 人用、コーラス用 2)

写真 973034

### 5. 運営

地域アーツセンター Bendigo Regional Arts Centre のキャピトール・シアター Capital Theatre は、ゴールドラッシュ時期の 1873 年に建設されている。ヴィクトリア朝のファサッドを持つ美しい建物は当初フリーメイソンの事務所と会員の交流の場として建造された。当時はマソニック・ホール Masonic Hall と呼ばれていた<sup>(5)</sup>。

施設のハード面を見ると、メインホールは階段式の豪華な客席を持っているが、プロセニアム裏の舞台空間は左右の袖もなくフライタワー部もない。同じゴールドラッシュ時代に建設されたバララート市の劇場 Her Majesty's Theater と比較すると、機能面でかなり問題がある。元来演劇用に建設されたものではないのでやむをえないが、開館当時にサンドハースト・アマチュア・ドラマ



ティック・クラブ Sandhurst Amateur Dramatic Club が誕生していることは地域演劇の発生という視点から注目すべき事実ではある<sup>(6)</sup>。

旧マソニックホールは、かつてフリーメイソンの会員の交流の場であったことから立派な空間を併設している。クラブ室としての大広間は今ではイベント空間として使われているし、アールデコ調の美しい装飾を備えた会議室は、ピアノコンサートや室内楽などが楽しめる空間でもある。また古くから赤レンガの消防署（写真 973038）が隣接していたが、この美しい外観を持つビルは今ではアーツセンターの一部として改造され、実験小劇場やレッスン場、あるいは工房、楽屋として使われている。1989 年から今のスタイルで運営されているが、レッスン場を中心としてバレエ、音楽、演劇の養成講座、地元のアマチュア団体の発表活動、地元の財界にバックアップされた本格的舞台公演まで幅広い文化活動を展開中である。ただしバララートに比較すると、博物館の似合う歴史の町という印象で、文化的には活気が足りない。以前は VAPAC（ヴィクトリア州のアーツセンターのネットワーク）の本部事務所でもあったが、その機能もジーロン市に移ってしまった。財政状況を示すアニュアルレポートなどが入手できなかったので詳細は不明であるが、文化財としてのホール施設は州政府の補助を受けて維持されている。また他の地域と違う点は、地元銀行資本から強いバックアップがあることだ。

この町の特徴としてゴールドラッシュの遺産として中国人居住者が多い。中国人移住者博物館もあり、ドラゴンフェスティバルは観光名物でもある。

(5) Companion to Theatre in Australia, 1995, pp. 38-39

(6) 「オーストラリア国ヴィクトリア州の演劇事情（1）—歴史と劇場施設—」中京大学文化科学研究所 1997 年度紀要『文化科学研究』vol.2 参照

(7) 写真 973038

### (3) ハー・マジェスティズ・シアターと市民ホール Her Majesty's Theatre & Civic Hall

写真 Bala 01 & 022

1. 所在地: P.O. Box 655 Ballarat Victoria 3353

2. 電話 : Majes-Tix (Box Office) 03-5333-5888

: Administration 03-5333-5800

: Fax 03-5333-5757

3. バララート市の概要

メルボルン市の西方 120 km、人口 6 万 3800 人、2つの大学、2つのラジオ局があり、ヴィクトリア州第2の地方都市である。

4. 施設 : 1875 年建設の旧音楽アカデミー Ballarat Academy of Music、現在のハー・マジェスティズ・シアター Her Majesty's Theatre と市民ホール Civic Hall

## ○ ハー・マジェスティズ・シアターの概要

ヴィクトリア州の19世紀後半の花ともいふべき存在で、日本で言えば、琴平の歌舞伎小屋的価値を持っている。文化財としてのみならず、幾たびも改造が加えられ、時代変遷の証人そのものでもある。実際、フラットフロアからスロープ式フロアへ（舞踊場から本格的劇場へ）の変換工事（1898年）、ガス照明から電気照明への変換工事（1914年）、スチーム式暖房システムの導入工事（1936年）、映画上映への改良工事（1936年）などの改造の時代を如実に体現している（資料参照）<sup>(8)</sup>。

客席数 959

写真 Bala 09

1階、481席、

写真 Bala 08

2階、224席、

3階、254席

写真 Bala 05 & 06

ステージ 18.25 m (W) × 15.3 m (D)

写真 Bala 13 & 14 & 15

ステージ 傾斜度 1 : 25

8.46 m (W) × 6.15 m (H) × 13.4 m (H to grid)

写真 Bala 10

プロセニウム 10.75 m (W) × 6.9 m (H)

オーケストラピット

写真 Bala 12

楽屋、会議室、ボックスオフィス

レンタル料金：商業的利用の場合、400～800ドルもしくはチケット収入の10%

非営業的利用の場合、250～500ドルもしくはチケット収入の10%

ただし1日2回公演の時は、

商業的利用の場合、2回目に対して300ドルもしくはチケット収入の7.5%

非営利利用の場合、2回目に対して180ドルもしくはチケット収入の7.5%

教育的利用の場合、2回目の非営利利用料金と同額同率とする。

スタッフの提供については、料金に技術者1名（最高9時間）、フロント要員1名（最高5時間）が含まれる。

またセット料金も設定されている。

光熱費、清掃要員、照明・装置など舞台設備利用、防火要員一式で

商業的利用の場合、1000ドル

非営利利用の場合、650ドル

ただし5時間以内で終了する場合は、それぞれ750ドル、350ドルに減額できる。

またリハーサルは、舞台のみの使用、照明は作業灯のみ使用で、セット料金650ドル、ただし5時間以内で終了する場合は、350ドルとする。なお時間計算は、開始15分前から終了後30分を計算内に入れるものとする。

## ○市民ホールの概要

写真 Bala 22

建設 1956 年  
客席数 1225 席（1 階 800 席、2 階 425 席）＊板張りのフラットフロア

写真 Bala 24

ステージ 傾斜度 1 : 25  
19.1 m (W) × 11.75 m (D)  
× 17.1 m (H to Grid)

プロセニウム 10.75 m (W) × 6.9 m (H)

楽屋 12 室

レンタル料金：講演会、コンサート、パーティ、公務使用の場合、250 ～ 500 ドルないしは入場者 1 人 2 ドル計算、セット料金で 450 ドル（電気、ガス使用含む。監督者 1 名付き最高 9 時間まで）

リハーサルはセット料金で 250 ドル（同様）

展示会使用の場合、250 ～ 500 ドルないしは入場者 1 名 1 ドル計算、セット料金では 300 ドル（同様）

会議、試験、リハーサルの時は、セット料金のみで 250 ドル（同様）

(8) Peter Freund, *Her Majesty's Theatre*, Guide Book and History (draft), 1996

## 5. 運営

バララート市はベンディゴ市と並んで、ゴールドラッシュ時代に忽然と登場した中核地方都市の一つである。歴史的経過の詳細については、「オーストラリア国ヴィクトリア州の演劇事情（1）—歴史と劇場施設—」中京大学文化科学研究所 1997 年度紀要『文化科学研究』で紹介したが、ハー・マジェスティズ・シアターは紆余曲折があって、1963 年最終的に営業を停止した。日本と同じくテレビ全盛時代の到来と映画の斜陽に経営が立ち行かなくなったようである。1965 年、ロイヤル・サウス・ストリート協会 Royal South Street Society は映画興行会社ホイット Hoyts から同施設を 6 万 4000 豪ドルで購入した。同協会は 1896 年以来、芸術コンクールを主催してきた団体でメモリアルホールとして利用する計画であった。しかし同協会は同年バララート市に寄贈した。

1989 年、バララート議会による条例 Local Government Act 1989 によって第 3 センター方式による運営が始まった。劇場運営にあたる理事会 Her Majesty's Theatre Board of Management は、議会の任命による 10 人の理事によって構成されている。議会推薦 4 名、ロイヤル・サウス・ストリート協会推薦 4 名、利用者団体推薦 2 名。また議会によって任命される館長は理事会に出席するが、議決権は持たない。理事の任期は 2 年、ただし協会推薦の理事は留任可能のようである。

理事会の任務は、自治体の事業計画 the Corporate Plan 1996-2000 と議会と協会の協定 Agreement 5/11/87 によって明文化された。

事業計画の趣旨 mission は、次の通りである。

「ハー・マジェスティズ・シアターと市民ホールの両施設をバララート市の舞台芸術の享受のための第1級の施設として発展的に運営すること、また住民の関心と参加を高め、市内での芸術と文化活動の発展を期すること」

To promote and operate Her Majesty's Theatre and the Civic Hall as the City of Ballarat's premier facilities for the enjoyment of the performing arts, fostering interest and encouraging participation, to enhance the growth and development of the arts and cultural pursuits within the City.

具体的指針としては、(1) 住民の鑑賞機会を提供して文化生活を高めること、(2) 地域を問わず両施設の利用率を高めること、(3) 多様な事業を提供すること、(4) 法律に従い安全にプロフェッショナル劇場として運営すること、(5) 地域の団体が利用しやすいように支援すること、(6) ワークショップや技術指導の機会を通して劇場利用を高めること、(7) 財政的に効率よい経営を発展させるために、劇場関係者と良好な関係を保つこと、会計報告をすること、戦略的経営を進めること、維持費の軽減に努めること、(8) 施設の利用を高めるためにマーケティングなど方法を発展させること、(9) 理事会の予算内で運営を実現することなどがある<sup>(9)</sup>。

(9) *the Corporate Plan 1996-2000*, Council of Ballarat, 1996

スタッフは、館長以下、技術職3名、広報1名、会場管理(フロント)1名、会計2名を中心として非常勤を入れて全体で13名のスタッフで運営されている。

現在の館長ジェニス・ヘイネス Janice Haynes は、現役の舞踊家であると同時に、プロデューサーや劇場運営のキャリアを持つ人物である。彼女は1996年の着任で、私たちが調査に出かけた時(1997年3月)は、着任後1年を経ても、新体制の評価はこれからという感じであったが、十分に期待が持てる。一つはゴールドラッシュ以来の文化的伝統があること、一つはロイヤル・サウス・ストリート協会という文化団体があること、一つは2つの大学が存在して知的集積と文化的社会基盤を持っていること、そして何よりバララート市の発展の可能性に支えられているからである。バララート市の人口は周辺人口をいれると12~13万あり、先端技術や自動車産業の工場団地を有しており、経済的に発展中であることが劇場の未来を明るくしている。

詳しい予算情報は得られなかったが、ヒアリングでは、年間予算は約100万ドル。人口から見ても3倍以上の違いがあるから当然かもしれないが、西ジプスランド(約35万ドル)の3倍近い予算である。予算の90%を劇場運営に充当している。半分は議会からの補助、25%がチケット収入、その他は州政府や寄付などで賄っている。

事業内容を見ると、まず鑑賞会形式で年間11本が企画されている。メルボルンの代表的プロ劇団MTCの『私生活』(ノエル・カワード)と『夕食後』(アンドリュー・ボウヴェル、オーストラリアの作家)と同じくメルボルンの代表的プロ劇団プレイボックスの『翌朝』(ヴェリティ・ローガン、オーストラリアの女流作家)、メルボルン交響楽団の『未完成』、メル・タンカード舞踊団の『フリオーズ』、オペラやミュージカルが2本など人口7万の都市にしては充実した内容である。年会費244ドル、平均22ドルというのは割安である。またこれとは別にマチネ用のプログラムが4本用意

されている。6ドルからという格安料金のショートプログラムだが、観客育成や遠隔地から来る人々向けのプログラムとして考案されたのかも知れないが、多様な発想で企画されている。また青少年向けに割引制度カルチャー・ヴァルチャー Culture Vulture がある。高校生に焦点を当てたプログラムではほぼ半額近いディスカウントをしている。

鑑賞会以外の公演は色々だが、地元には多様な芸術団体がある。バララート交響楽団 Ballarat Symphony Orchestra、バララート合唱協会 Ballarat Choral Society、バララート歌劇団 Ballarat Lyric Theatre、バララート軽楽劇協会 Ballarat light Opera Company、バララート・ダンスワークス Ballarat Dansworks、バララート大学付属劇団 University of Ballarat Performing Arts などは独自に舞台公演を打つ力を持っている<sup>(10)</sup>。そしてバララートにおいてオーストラリア・グランド・コンクール Grand National Eisteddfod of Australasia を 100 年間続けているロイヤル・サウス・ストリート協会。同コンクールは毎年 8 月から 11 月にかけて開催されるが、数千の団体エントリー、個人レベルで約 3 万人の参加がある<sup>(11)</sup>。また市主催の様々なイベントがあるが、中でも 3 月に開催されるベゴニア花祭りは、1938 年から続くイベントで、今では舞台芸術の公演とセットになってビッグイベントになっている。

こうした地元芸術団体の舞台公演やイベントはバララート市の文化活動を変え活発なものになっているが、その活発さはヴィクトリア州内の地方都市では最高水準にあるだろう。

こうした文化活動を考えると、伝統あるハー・マジェスティズ・シアターではあるが、時代の要請に応えるべき文化施設としてはハード的に機能不全を起こしかねない。市民ホールも講堂の域を出ていない。ジーロン市のように小ホールとレッスン場を含む総合文化施設の誕生が望まれる。

(10) programme of Gala Variety concert for June, 1996, (The Courier)

(11) pamphlet of the Grand national Eisteddfod of Australasia, Royal South Street Society

#### (4) ジーロン・アーツ・センター Geelong Performing Arts Centre (GPAC)

写真 Geel—1、6、2、3、11、12

1. 所在地: P.O. Box 991, Geelong, Victoria 3220

2. 電話 : Box Office 052-21-7066

: Administration 052-25-1200

Fax : 052-21-3106

Email address : geelongac@peg.pegasus.oz.au

#### 3. ジーロン市の概要

メルボルン市の西南 60 km、人口 12 万 5000 人、ヴィクトリア州第 1 の地方都市である。メルボルン市と歴史を共有してきたが、ゴールドラッシュが終わる時点で都市的発展は大きく遅れてしまった。とりわけ 1888 年に万国博覧会がメルボルン市で開催され、1901 年にオーストラリア連邦政府議会が同市に設置されると、ジーロン市は完全にローカル都市になってしまう。しかし学校教育、劇場文化など様々な伝統を持つジーロン市は地方の中では特別な存在である<sup>(12)</sup>。現在、

同市は幅広い産業都市として新たな発展を遂げつつあり、文化的にも再び活況を取り戻しつつある。

(12) 歴史的経過については『オーストラリア国ヴィクトリア州の演劇事情(1)―歴史と劇場施設―』(1997年度文化科学研究紀要 vol. 2) 参照

#### 4. 施設

- ・大ホール1 Ford Theatre,

写真 Geel— 11

名前の通り、アメリカの自動車会社フォード社の寄贈である。ジーロン市は自動車関連産業が発達している。

- ・大ホール2 Deakin Woolstores Great Hall

写真 Geel— 26、28、29、30

ジーロン市は古くから羊毛の輸出港として栄えた。その倉庫を改造してディーキン大学が教育施設として利用している。同大学はヴィクトリア州に6つのキャンパスを持っている。ジーロン市にも既設のキャンパスがあるが、港湾施設の一部である倉庫改造によって新たなキャンパスを開いた。最初に建築土木学部が設置された。この劇場施設もその記念事業である。ただしGPAC (Geelong Performing Arts Centre) に管理委託されているようである。

- ・小ホール1 Blakiston Theatre

写真 Geel— 17、18

多目的小ホール1 (旧チャペルを改造したもの) Barwon Theatre

写真 Geel— 09

地元の芸術文化協会 G.A.M.A. theare (Geelong Association of Music & Art) の拠点劇場として使われていた (1947-1995)。

写真 Geel— 08

- ・レッスン場 (バレエ、演劇などの教育施設、Anne Carrick School of Dance)

写真 Geel— 10

- ・リハーサル室1

写真 Geel— 21

- ・イベント空間1 (フォワイエ、ボックスオフィス、カフェ、ステージ)

写真 Geel— 02

☆GPACの直接的施設ではないが、青少年文化センター、ジーロン美術館が隣接している。

#### ○大ホール1 Ford Theatre の概要

客席                      ワンスロープ式    797 席

プロセニウム    12.13 m (W) × 7.96 m (H)

ステージ            26.64 m (W) × 12.81 m (D) × 18.49 m  
(H to the grid)

舞台機構            38 handlines (numbered 1 to 47 gaps for future expansion)  
6 lighting bars

反響板                acoustic shell (orchestra shell)

写真 Geel— 14

音響                    main PA system: F.O.H. system, Bi-Amped-stereo

multicore: 24 Mic Channels Stage to stalls/Balcony/Control Room  
 6 Returns to stage from all points,  
 4 Returns balcony to control room only  
 mixing desk: soundcraft 200 Delta 24 channel  
 power: 30 AMP 3 Phase  
 照明 AVAB 202 XP lighting control, 240 channels with 40×2kw, 76×5kw,  
 4×10kw dimmers 120 dimmers (analogue to digital via LSC linklights to  
 AVAB protocol)  
 映写機 V.I.P Pro 35mm projector (2)  
 16mm Projector (1)  
 楽屋 12 室 (大小ホール共通利用)  
 レンタル料金 1 公演 1144 ドル (リハーサル 562 ドル) 商業的利用の場合  
 1 公演 936 ドル (リハーサル 463 ドル) 地元団体の利用の場合  
 1 公演 711 ドル (リハーサル 457 ドル) 学校関係の利用の場合  
 スタッフ料金 最低 2 名技術者、4 名アッシャー、1 名楽屋口係をセットとしている。  
 (スタッフ料金):  
 labour requirement : min. of 2 technicians, 3-4 ushers, 1 stage door personnel  
 labour charges for all venues: Technical \$18.5/hr. min.3 hr.call  
 Front of House \$16.0/hr. min.3 hr.call  
 Stage of House \$16.0/hr. min.3 hr.call  
 Programme Sellers / Merchandise Sellers  
 \$16.0/hr. min.3 hr.call  
 なお予約受け付けは、1 枚につき 2 ドルの手数料を取る。  
 またクレジットカードの手数料は 4 ドルとなっている。

○大ホール	Deakin Woolstores Great Hall	写真 Geel— 28、29、30
客席	ワンスロープ式 客席数 1503 席	
ステージ	22 m (W) × 11.7 m (D) × (H unknown)	
上下袖	各 10.5 m (W) × 4.8 m (D)	
奥舞台	32 m (W) × 3.8 m (D)	
オケピット	13.8 m (W) × 7.3 m (D)	
楽屋	グリーン・ルーム(1)、大(2)、小(4)	
音響	Main PA system: FOH system Multicore: 24 mic channels	
照明	esk-Jands Event 48 Plus	

Dimmers: 8×Jands GP 12 placks @ 2.4 kw

6×Jands HP 6 packs @ 6 kw

2×LSC isolated Data Splitters DMX 512

レンタル料金 1公演 1600 ドル (リハーサル 850 ドル) 商業的利用の場合

1公演 1200 ドル (リハーサル 650 ドル) 地元団体の利用の場合

1公演 1200 ドル (リハーサル 650 ドル) 学校関係の利用の場合

○小ホール1 Blakiston Theatre (実験劇場)

スタジオ空間 18.59 m×18.5 m (方形)

客席 可動式 (ロールバック式) 椅子設置で 325 席

ステージ 7.67 m (H to the ceiling)

5.69 m (H to the lighting catwalk)

楽屋 大ホール Ford Theatre の楽屋と共同使用

音響 Mian PA system: FOH system

写真 Geel— 19

Mixing desk: soundcraft spirit folio rac pac (10 channel)

照明 Q Master 2000 memory control

写真 Geel— 19

Dimmers: patch panel 1 dimmers 1-28 (2.5kw)

patch panel 2 dimmers 29-48(5kw)

4 catwalk system

projection: 16mm projection

レンタル料金 1公演 410 ドル (リハーサル 200 ドル) 商業的利用&地元団体の利用の場合

1公演 312 ドル (リハーサル 200 ドル) 学校関係の利用の場合

labour requirement: min. of 2 technicians, 2 ushers, 1 stage door personnel

## 5. 運営

ジーロン市は地方都市であるが、文化行政に関しては特別な地位にある。1972年、ヴィクトリア州議会は、文化振興のために新しい部局としてアーツ・ヴィクトリア Arts Victoria を誕生させた。同部局は、「メルボルン市の舞台芸術の社会基盤研究 (その1)」で紹介したように、1994年に発表された文化政策「アーツ 21」を中心に活動しているが、州レベルの施設と機関、たとえば、ヴィクトリア博物館 Museum of Victoria、ヴィクトリア国立美術館 National Gallery of Victoria、ヴィクトリア・アーツ・センター Victorian Arts Centre などを直接的に監督している。このリストの中にジーロン・パフォーミング・アーツ・センター (GPAC) の名前が入っている。それはジーロン市が地方都市でありながら特別待遇を受けていることを意味する。

ヴィクトリアン・アーツ・センター (VAC) は世界レベルの施設&機関であるが、GPAC がこれと並ぶ扱いを受けている理由は今後の調査にまつしかないが、同市がメルボルン市と歴史を共有し



てきた過去の経過が大きく影響していることは確かである。またヴィクトリア州が文化政策を真剣に考えはじめた 70 年代には文化振興の対象となる条件を備えている地方都市はジーロン市ぐらいであったために、同じ枠組みの中で扱われた可能性もある。

ジーロン市にはメルボルン市と同じく文化企業合同（トラスト）The Geelong Performing Arts Centre Trust がある。設立もヴィクトリアン・アーツ・センター・トラストと同じく 1980 年である。GPAC の建設計画や事業計画や予算措置に関して重要な決定をする委員会 finance committee, programme committee を母体とした総合組織であるが、演劇系大ホールとしてフォード劇場、音楽系大ホールとしてディーキン大ホール、実験演劇系ホールのブラキストン劇場を確保し、隣接する旧裁判所 the Courthouse を改造して 1996 年に青少年文化センターとしてスタートさせた。その他、レストラン経営やケイタリング、人材育成事業まで人口 12 万の都市には考えられないレベルの成果を実現してきている。GPAC トラストのレベルの高さは人事交流に如実に表れている。たとえば、前総支配人（館長）のイアン・ロバーツ Ian Roberts は、メルボルン国際芸術祭の総支配人に転出しているし、新総支配人スー・ハント Sue Hunt は、ヴィクトリア州立オペラ Victoria State Opera から着任している。人事交流の広範さは日本も学びたいところである。

劇場施設と組織の運営は、州の文化省大臣 minister for the Arts の監督下にある GPAC トラスト理事会に任命された総支配人があたる。その下に、五分野の責任者（施設管理部長 Venue operations manager、営業部長 business development、マーケティング部長 marketing、教育部長 education officer、財務部長 administration manager）がいる。施設管理部門は三分野に分かれ、技術者部門、劇場のフロント部門（チケット販売、喫茶部、会場案内、ケイタリング）、清掃部門がある。職員数は、合計 24.3 名（常勤 17 名、非常勤 7.3 名）。人件支出は 1996 年度決算で 90 万 7567 ドルであった。全体の支出の 31% である（以下数字はいずれも 1995/96 年度のものの）。

経営内容を見ると、鑑賞会形式の舞台公演を年間 10 本提供している。会員は約 1200 名である。単純計算で、人口の 1% が会員数ということになる。これは日本だと、親子劇場の目標会員比率に匹敵する。日本の演劇鑑賞協会や音楽関係の鑑賞組織などを合算できる資料があれば、正確な比較ができるが、市民の関心度はかなり高いというべきだろう。

GPAC の企画は会員式の鑑賞事業だけではない。全体で年間 65 本の収益事業（entrepreneurial ventures）を展開している。収益は 100 万ドル少々（約 1 億円）で支出も 100 万ドル。3 万ドル程度の黒字になっている。チケット収入レベルで、自主事業以外のものも含めると、147 万ドルの売り上げになる。有料事業の料金を仮に平均 20 ドルとすれば、延べ人数で約 7 万人が鑑賞ないしは参加している。平均 10 ドルにすれば、約 15 万人。人口比率から考えると、年 1 回程度は利用していると言ってよいだろう。ヴィクトリア州の人々の余暇の過ごし方は多様である。とくにオーストラリア人はスポーティだと言われる。つまりスポーツへの志向性が高いことを考えると、相当な数字というべきだろう。

支出の項目を見ると、メンテナンス費用の低さに驚く。いわゆるメンテナンスと修理費に 11 万 2692 ドルしか使われていない。この背景には法律上の安全基準と人件費の違いがある。実際、ス

スタッフを雇用する場合、オペレーターレベルで1時間18.5ドル(3時間以上の雇用が前提)。仮に1日8時間としても150ドルである。1ドル100円換算としても、日本の半額である。

広報宣伝費(advertising & publicity)として9万3454ドル。自主収益事業の支出の約10%になる。これは標準的であろう。日本でも民間の商業的興行では宣伝にTVやマスメディアを利用するため20%にすらなるだろうが、日本の公立劇場の自主事業を見ると、その割合は非常に低い。一つは予算自体が低いから回らないということもあるが、基本的に営業という視点がないからである。チケット収入が事業費に使えずに、本庁へ上納しなくてはならないので営業行為がインセンティブなものにならないという事情もある。また担当者に市民的関心の喚起の目標が設定されていないという事情もある。美しいポスターやちらしは文化である。若いアーティストを育てる場でもある。日本の公立劇場の広報宣伝は根本的に再考されねばならない。

ケータリングの収支を見ると、支出に11万4630ドル、収入に21万9526ドル。約10万ドルの収益となっている。

収入を見ると、貸し館収入が22万2580ドル。1日当たりの利用料金は1600ドルから312ドルであるが、リハーサル使用を考慮せずに、地元の団体利用料金936ドルから412ドルを基準に単純平均した数字674ドルを使えば、約330回の使用ということになる。これに鑑賞会使用の36回使用を入れ、ディーキン大学のホールを勘定に入れなければ、大小2ホールの稼働率は約50%位であろうか。日本の現状と比較すると、人口12万の都市でこの数字は立派ということになるだろう。日本に欠けているものは何か。自主事業費とか、スタッフの人件費とか色々指摘できるが、私は第1に芸術文化の享受権の認識問題があると考え。館の運営に先立って、使命(ミッション)が明確に謳われていること、第2にゴールが設定されていること、営業努力が方針化されていること、営業の評価が行われること、その結果によってはトップやスタッフの契約更改問題があるなどを指摘できるだろう。

さて、GPACは、VAPAC Victorian Association of Performing Arts Centresの本部事務所を置いている。以前は、ベンディゴ市にあったが、情報ネットワーク作業のできる施設ということでここに移されたようである。実際、インターネットによるシアター・ネットワークが始まっている。そのネットには利用者、一般市民もアクセスできる。これなどは日本の緊急の課題の一つである。文化庁を先頭に推進が図られているが、情報公開という問題が横たわっている。日本はどのようにしてこの問題を解決するのだろうか。芸術の主体が住民であるならば、館の運営は公開されねばならない。

## ま と め

ヴィクトリア州の演劇事情は、いわば私にとって処女地である。知ることすべてが新しい。1994年以来、4回の渡豪<sup>(13)</sup>で収集した資料はまだまだ未整理であるが、ぼんやり姿が見えてきた。姿形が見えてくると、問題点もはっきりしてくる。例えば、ゴールドラッシュ以前の地方都市にあった演劇活

動の実態がわからない。ゴールドラッシュの初期の金鉱町に劇場が生まれ、最初はアマチュア主体の演劇であったが、たちまちのうちに本国の俳優によるプロの演劇へ移行していく。プロ劇団の活動は文献もあり歴史的にどうにか追えるが、アマチュア演劇の伝統はどこへ行ったのか。また導入されたヨーロッパの演劇にオーストラリア的傾向がどのように附与されたのか。都市における支持層や演劇のイデオロギー的傾向性の問題もある。20世紀になると、映画という第7芸術の急激な台頭が始まるが、劇場文化はどう対応したのか。とくに1930年につぶれていく劇場はどうなったのか。映画館に改造された劇場から追い出された舞台人はどうしたのか。抵抗した演劇的伝統はあったのか。俳優たちの映画産業への転向はあったのか。最終的には、60年代に台頭してくる真の意味でのオーストラリアン演劇の生成メカニズムを問うのだが、その前史として以上のことは押さえねばならない。また現在の文化振興政策が演劇に何をもたらすのか、演劇は今後どうなっていくのか、あるいはどうなればよいのかを探ることになるが、前史の解釈が大きく影響すると考えている。またこうした探求<sup>(14)</sup>が日本の事例研究と比較されることによって、日本の演劇の行く先が照らし出されるかも知れない。今後の研究に期待していただければ幸いである。

(13) 1994年10月、1995年10月、1996年8月-10月、1997年3月

(14) 拙論参照「オーストラリアの地域演劇」『演劇人』3号、(1999年春予定)

資料1 ビクトリア州の劇場と所在地並びに劇場数と客席数

(作成協力・田中智麻)

劇場名 (施設名)	所在地	劇場数	客席数
Alexander Theatre (univ.Monash)	Clayton 3168	1	508
Ararat Town Hall	Ararat 3377	1	700
Athenaeum Theatres 1 and 2	Melbourne 3000	2	1:920, 2:200
Ballarat Civic Centre	Ballarat 3350	1	1250
Bendigo Stadium	Bendigo 3550	1	3500
C.U.B.Malthouse: Merlyn Theatre, Beckett	Melbourne 3205		1: 450, 2: 180
Caulfield Arts Complex	Caulfield 3162	1	CEMA Arts Centre
CEMA Arts Centre	Portland 3305	1	150
Dallas Brooks Concert Hall	East Melbourne 3002	1	2250
Doncaster Arts Complex	Doncaster 3108	1	
Festival Hall	West Melbourne 3003	1	6630
Flinders Park National Tennis Centre	Melbourne 3000	3	1:16,000, 2:6,000, 3:3,000
Geelong Performing Arts Centre	Geelong 3220	3	1:810, 2:240, 3:1600
George Fairfax Studio	Melbourne 3004	1	420
George Jenkins Theatre (univ.Monash)	Frankston 3199	1	350
Guild Theatre (univ.Melbourne)	Melbourne 3052	1	106
Hamilton Performing arts Centre	Hamilton 3300	1	500
Her Majesty's Theatre	South Ballarat 3350	1	959
Karralika Theatre-Lingwood Convention Centre	East Lingwood 3135	1	435
Kyneton Arts Centre	Kyneton 3444	1	135
Melbourne Concert Hall	Melbourne 3004	1	2677
Midura Arts Centre	Midura 3502	1	402
Northcote Amphitheatre, The	Melbourne 3001	1	
Nunawarding Arts and Entertainment Centre	Nunawading 3131	1	408
Olympic Park Melbourne	Melbourne 3004	1	12900
Palace, The	Melbourne 3182	1	700
Paramount Arts Activity Centre	Echuca 3564	1	
School of Drama Theatre	Melborne 3004	1	
Seven Creeks Run Amphitheatre	Euroa 3666	1	4000
Sydney Myer Music Bowl	Melbourne 3000	1	13000
Sports and Entertainment Center-Melbourne	Melbourne 3004	1	7203
the Continental Cafe	Prahan 3181	1	320
Theatre Royal	Camperdown 3260	1	500
Traralgon Little Theatre	Traralgon 3844	2	1: 200, 2: 500
Union Theatre(Univ.Melbourne)	Melbourne 3052	1	434
Upper Yarra Arts and Entertainment Centre	Warburton 3677		230
Victorian Arts Centre (1)	Melbourne 3000	2	1: 2,677, 2: 800
Victorian Arts Centre (2)	Melbourne 3000	2	3: 400, 4: 200
Warrnambool Performing Arts Centre	Warrnambool 3280	1	585
West Gippsland Arts Centre	Warragul 3820	1	500
40 houses	Mel.18 & the rest 22	51 halls	95,521seats (+ $\alpha$ )

★州内の40個所に劇場もしくはアートセンターがあるが、その45%がメルボルン市内と近隣郊外(inner suburb)にある。全体の半分がメルボルンにあるということはかなりの集中度であるが、人口密度から言えば、一極集中度は緩和されていると見るべきか。芸術の享受権との関係から言えば、相当な手当てがされていると見るべきか。施設の便益性など経済的効果も考えねばならないが、どこに基準を設定するかは政策的に重要なポイントではある。

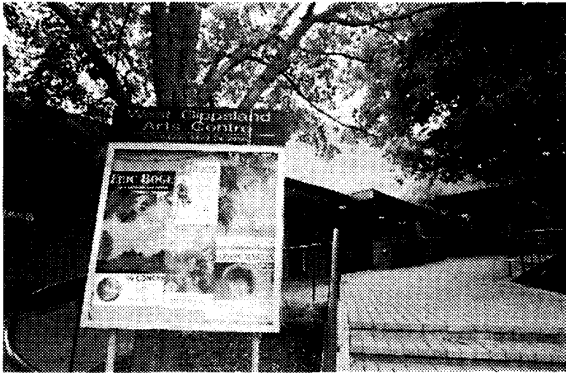


写真 973021

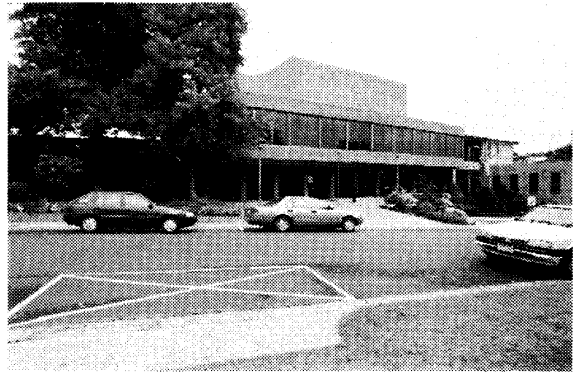


写真 973022

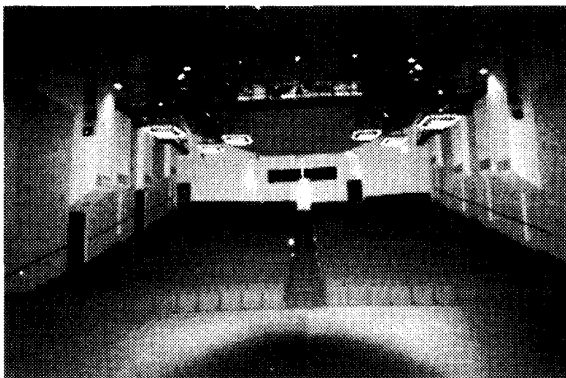


写真 973010

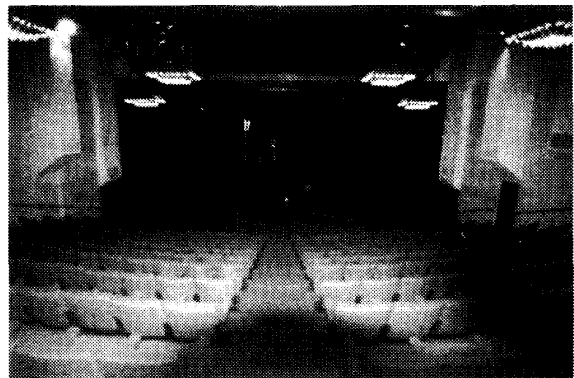


写真 973011

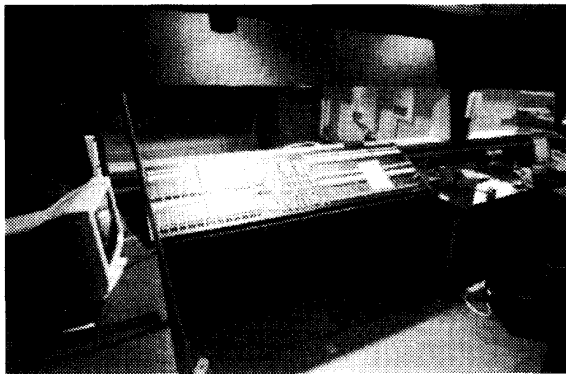


写真 973013

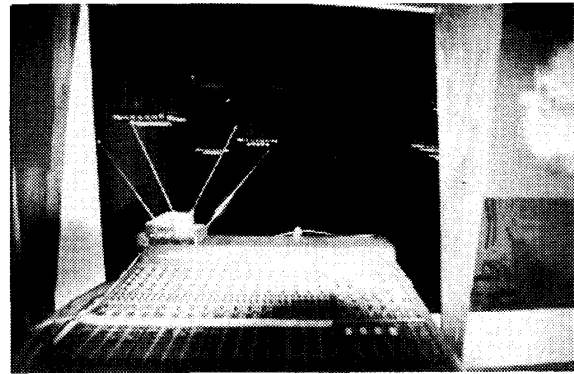


写真 973014



写真 973018



写真 973027



写真 973028



写真 973029

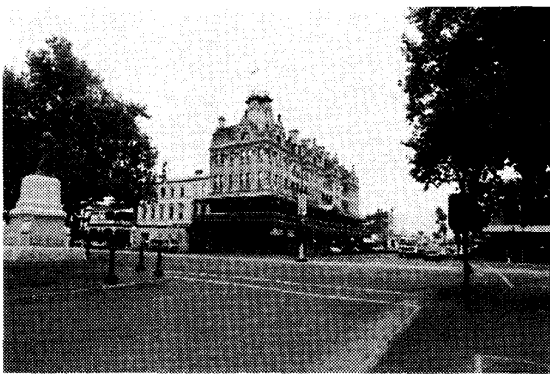


写真 973026

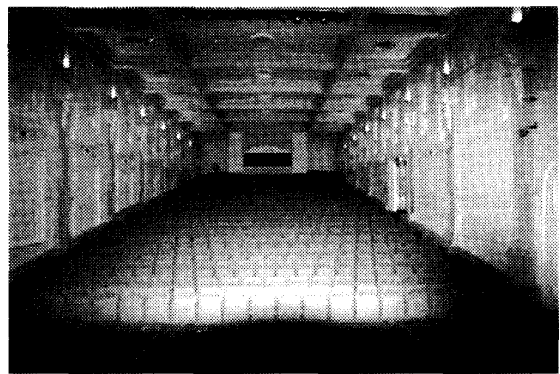


写真 973032

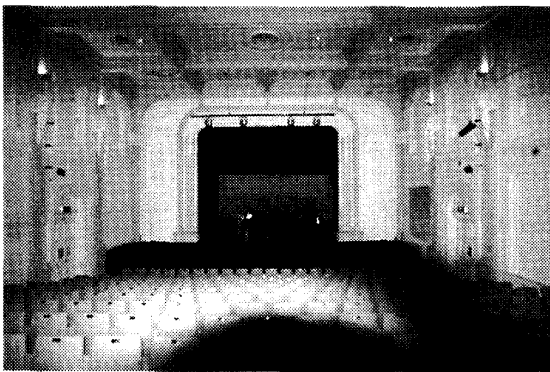


写真 973033

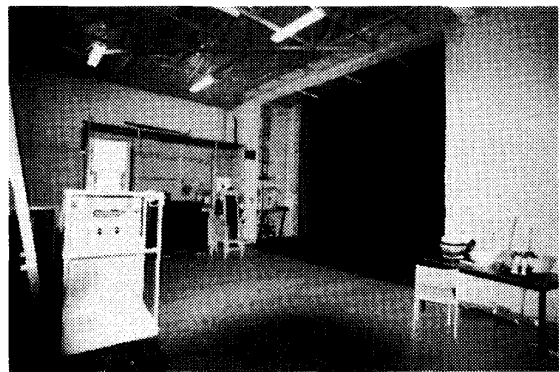


写真 973035



写真 973036



写真 973030

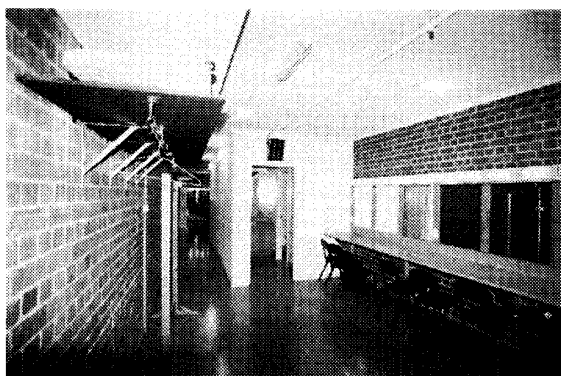
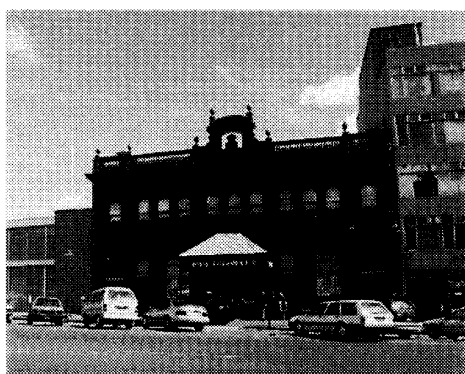


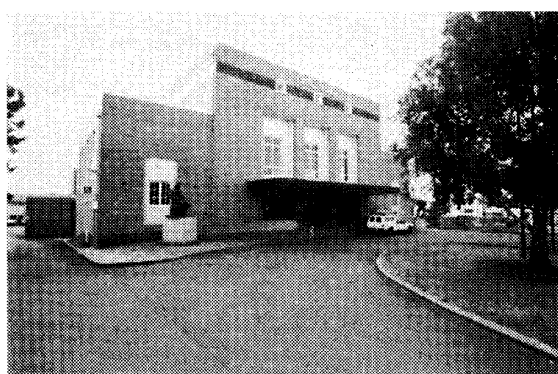
写真 973034



写真 973038



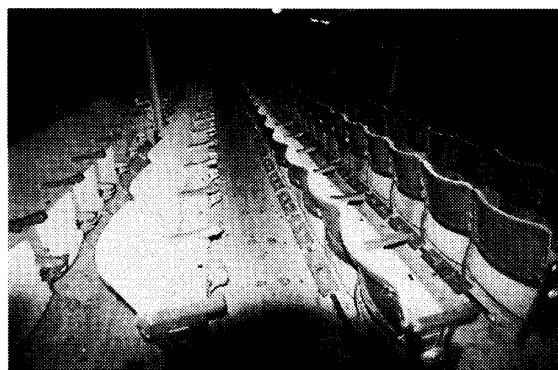
Bala 01



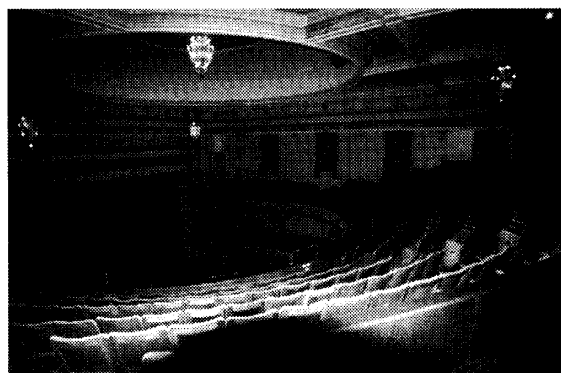
Bala 022



Bala 09



Bala 08

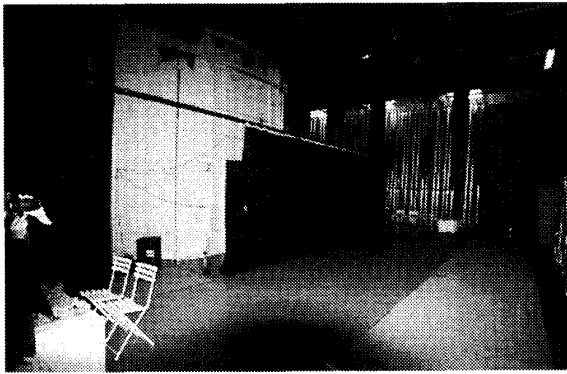


Bala 05

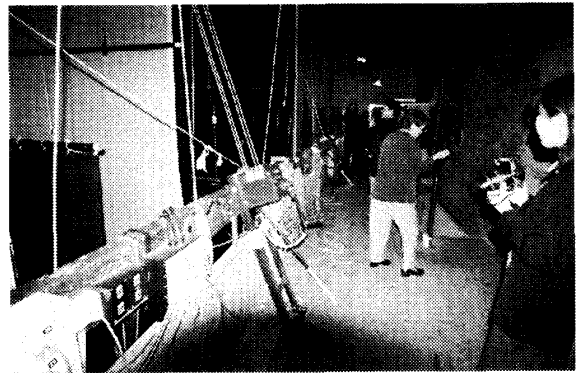


Bala 06

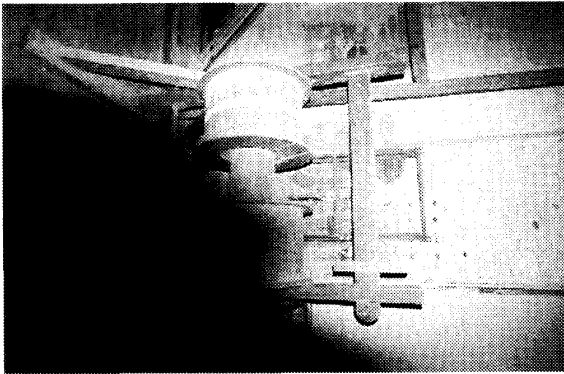




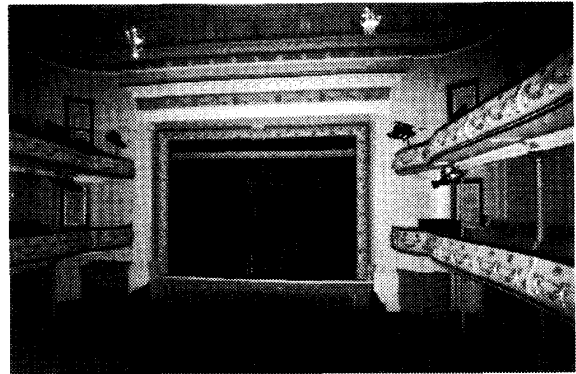
**Bala 13**



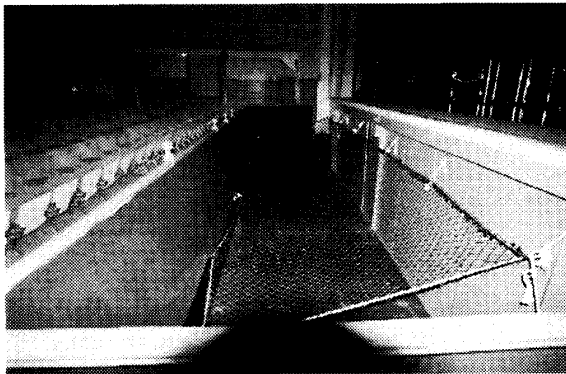
**Bala 14**



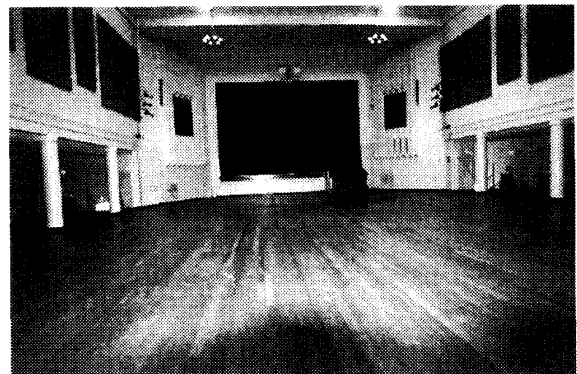
**Bala 15**



**Bala 10**



**Bala 12**



**Bala 24**



**Geel - 1**



**Geel - 6**





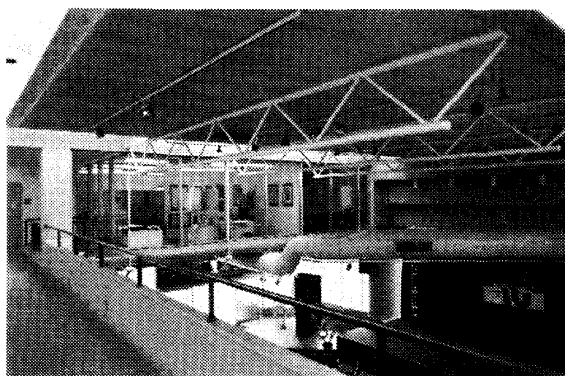
Geel — 2



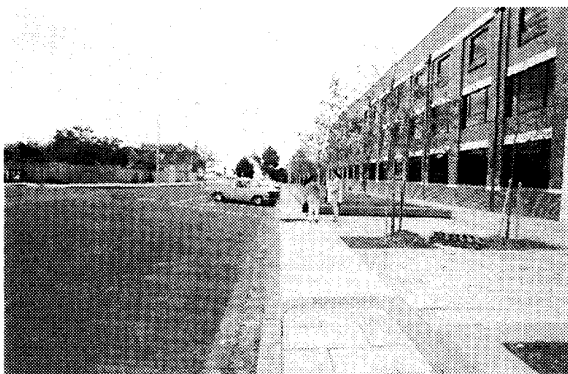
Geel — 3



Geel — 11



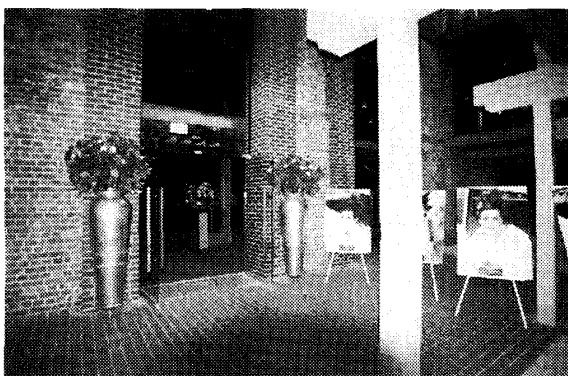
Geel — 12



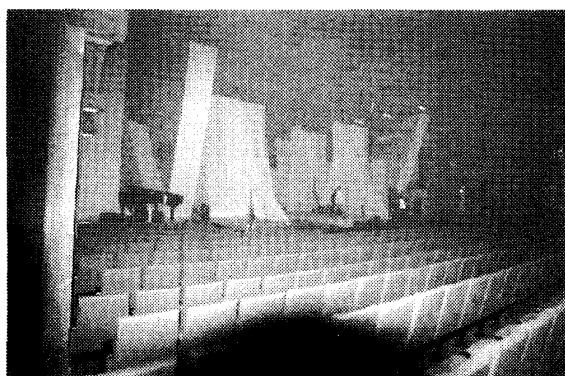
Geel — 26



Geel — 28



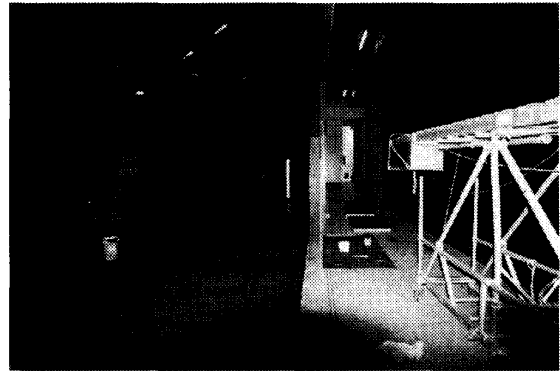
Geel — 29



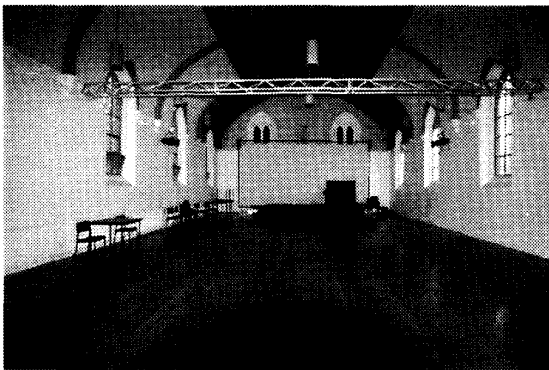
Geel — 30



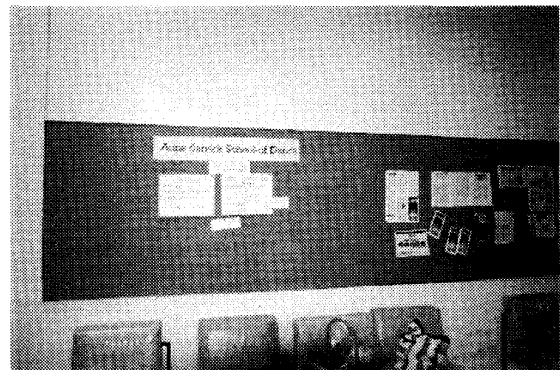
Geel — 17



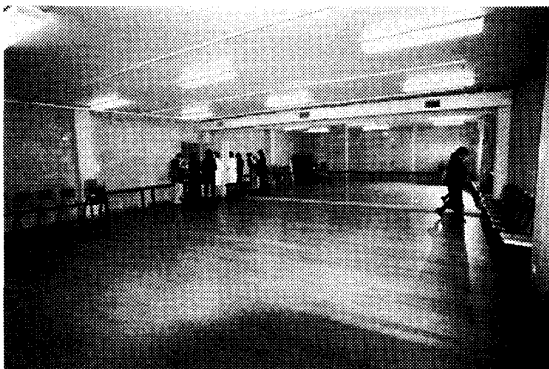
Geel — 18



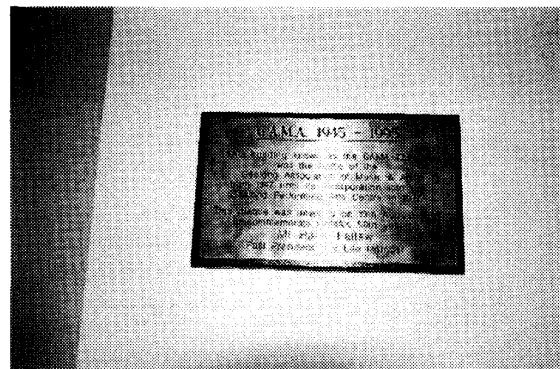
Geel — 09



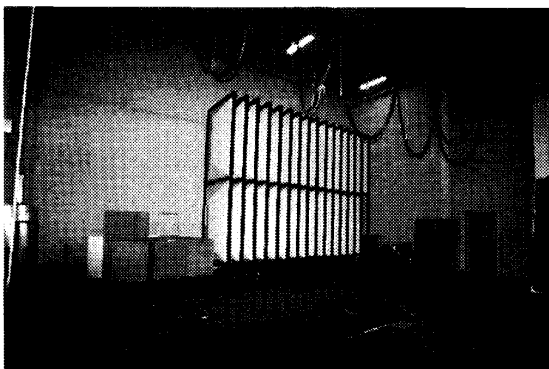
Geel — 10



Geel — 21



Geel — 08



Geel — 14



Geel — 19